

# 事業概要説明シート

事務事業番号 10101020018

事務事業名	穂谷川清掃工場施設運營業務(工事)	類似事業グループ	3.施設維持管理(指定管理除く)
事業期間	1988(H63)年度 ~	担当部署	環境事業部 穂谷川清掃工場
総合計画体系	(施策目標) ごみの発生を抑制し、資源を循環させてごみを減らす		
公約	○	行政改革実施プラン	○ 質疑意見等 (市議会) ○ (監査委員)

根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、消防法・枚方寝屋川消防組合火災予防条例、大阪府生活環境の保全等に関する条例、下水道法・枚方市下水道条例等
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: ) <input checked="" type="checkbox"/> その他(一部委託 )
目的(何のために)	ごみ焼却炉(第3プラント)及び動物焼却炉を適正に維持管理することにより、焼却処理に伴い発生する大気汚染・水質汚濁などの公害を防止するとともに、焼却炉の機能を保全し安全で安定したごみ処理を行う。
対象(誰・何を対象に)	一般市民
事業内容	家庭から排出される一般廃棄物はごみ焼却炉(第3プラント)で、犬猫等のペットや飼い主不明の動物の遺骸は動物焼却炉でそれぞれ焼却処理している。これら2基の焼却炉の保守点検を行うとともに、これに関連する設備機器及び消耗部品の定期的な交換や補修等を実施している。
目的が同種の事業(国・府・市・民間)	ない
事業の必要性	家族に愛着を持って飼育されているペットと飼い主不明等の動物の遺骸は、他の一般廃棄物と混合して焼却するのではなく、「お別れの場」を備えた専用の動物焼却炉で焼却している。これはペットを亡くした市民の感情や動物愛護の観点に配慮したものの。

コスト													
		H24年度決算			H25年度決算			H26年度当初予算					
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費				
正職員	20.0	人	159,600	千円	10.8	人	85,385	千円	9.5	人	75,411	千円	
	再任用職員	4.0	人	13,710	千円	0.4	人	1,292	千円	1.3	人	5,036	千円
	非常勤職員等	0.9	人	1,522	千円	0.0	人		千円	0.0	人		千円
人件費計(A)		174,832		千円	86,677		千円	80,447		千円			
直接経費(B)		609,321		千円	509,737		千円	986,648		千円			
総事業費(A+B)		784,153		千円	596,414		千円	1,067,095		千円			

財源内訳										
		H24年度決算			H25年度決算			H26年度当初予算		
国庫支出金				千円			千円			千円
府支出金				千円			千円			千円
受益者負担(使用料等)				千円			千円			千円
その他				千円			千円			千円
一般財源		784,153		千円	596,414		千円	1,067,095		千円

		内 容	金 額
平成25年度事業費の主な内訳(人件費除く)		穂谷川清掃工場定期補修工事(第3プラント・井戸設備・排水設備・動物焼却設備)	310,148 千円
		ごみ処理改修・補修工事	136,500 千円
		第3プラントボイラ水管工事更新工事	58,854 千円

# 事業概要説明シート

事務事業番号 10101020018

事務事業名	穂谷川清掃工場施設運營業務(工事)	類似事業グループ	3.施設維持管理(指定管理除く)
事業開始年度	1988(H63)年度 ~	担当部署	環境事業部 穂谷川清掃工場

	活動指標もしくは成果指標	単位	H24年度	H25年度	H26年度(見込み)
活動実績	① ごみ焼却量	トン	30,542	32,090	29,090
	② 動物特殊焼却炉による焼却数	体	2,488	2,398	2,487
	③ 動物特殊焼却炉の維持管理費用	円	4,059,216	4,267,693	8,795,000
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① トン当たりのごみ焼却費用	千円/t	26	19	37
	②				
	③				
目標とする成果 (費用対効果含む)	各種法令を遵守した、安全で安定したごみ処理施設の維持運営。 その中でも動物焼却炉について、飼い主不明等の動物遺骸の分を無くし、これから更に老朽化が進み増加することが想定される定期補修費や燃料費を抑制することを目標とし、あわせて環境負荷を削減することを目標とする。				
成果目標 達成状況	昭和57年供用開始以来、稼動32年が経過し老朽化しているため、補修工事費が増加している。			目標達成度	目標を下回る
比較参考値 (他自治体とのコスト比較、サービス水準比較)	本市では市民(飼い主)による動物遺骸の持ち込みは無料で受け取っており、ペットの遺骸収集について1体につき1200円を徴収している(飼い主不明等の動物遺骸は収集についても無料で行っている)。 他市の事例では受け取りそのものが有料であったり金額も高く、焼却も動物遺骸を一般廃棄物と混合焼却処分を行っている場合もある、このことから本市のサービス水準は高いと考える。				
事業のPR					
市民満足度					
特記事項	ペットも飼い主不明等の動物についても遺骸を全て動物焼却炉で処分しているが、このうち飼い主不明等の動物を他市と同様にごみピットに投入し他の一般廃棄物(生ごみ等)と混合して焼却することで、動物焼却炉での焼却量・回数を減らし焼却炉への負荷を抑え、焼却炉の延命化や臭気の低減、費用の削減を図る。一方で、飼い主不明等の動物について経費削減を目的とした一般廃棄物との混合焼却処分については、動物愛護の観点や一般的な市民感情に配慮し、丁寧な説明を行い理解を求めていくこととする。				

一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	昭和57年に設置(32年稼動)し老朽化していること、第2プラントの煙道に接続していた排気を第2プラント撤去後に独立した煙突にした。負荷を減らす方法や運転方法等を改善し、動物焼却炉の延命化と効率的かつ効果的な維持管理・運転を進める。
一次評価結果	・一次点検内容について、特に異論なし。	
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策		

# 事業概要説明シート

事務事業番号 10101020016

事務事業名	塵芥収集業務		類似事業グループ	23.その他サービス提供
事業期間	～	担当部署	環境事業部 減量業務室	
総合計画体系	(施策目標) ごみの発生を抑制し、資源を循環させてごみを減らす			
公約	行政改革実施プラン	質疑意見等	(市議会)	(監査委員)

根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: ) <input checked="" type="checkbox"/> その他(一般ごみ、缶、びん・ガラス類などの家庭系一般廃棄物(ふん尿を除く)の収集業務を一部委託)
目的(何のために)	家庭系一般廃棄物(ふん尿を除く)を迅速かつ適正に収集し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。
対象(誰・何を対象に)	市民
事業内容	「一般ごみ」と「資源ごみ(空き缶、びん・ガラス類及びペットボトル・プラスチック製容器包装)」は、収集曜日を定めた定曜収集方式にて実施する。また、「粗大ごみ」と「臨時ごみ」は、電話及びインターネット予約による戸別収集方式にて実施する。
目的が同種の事業(国・府・市・民間)	なし
事業の必要性	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条及び第6条の2にあげられる市の責務として、実施しなければならない事業である。

コ ス ト		H24年度決算				H25年度決算				H26年度当初予算			
		従事職員数		概算人件費		従事職員数		概算人件費		従事職員数		概算人件費	
正職員	129.0 人	1,032,000	千円	130.0 人	1,027,780	千円	127.0 人	1,008,126	千円				
再任用職員	0.0 人	0	千円	17.0 人	54,927	千円	16.0 人	61,984	千円				
非常勤職員等	0.0 人	0	千円	1.0 人	3,433	千円	1.0 人	3,262	千円				
人件費計(A)		1,032,000	千円	1,086,140	千円	1,073,372	千円						
直接経費(B)		424,133	千円	587,025	千円	592,977	千円						
総事業費(A+B)		1,456,133	千円	1,673,165	千円	1,666,349	千円						

財源内訳		H24年度決算		H25年度決算		H26年度当初予算	
国庫支出金			千円		千円		千円
府支出金			千円		千円		千円
受益者負担(使用料等)			千円		千円		千円
その他			千円		千円		千円
一般財源		1,456,133	千円	1,673,165	千円	1,666,349	千円

平成25年度事業費の主な内訳(人件費除く)	内 容	金 額
	収集業務委託(一般ごみ、資源ごみ、プラスチック製容器包装)	509,374 千円
	資源物再資源化処理委託	7,269 千円

# 事業概要説明シート

事務事業番号 10101020016

事務事業名	塵芥収集業務	類似事業グループ	23.その他サービス提供
事業開始年度	～	担当部署	環境事業部 減量業務室

	活動指標もしくは成果指標	単位	H24年度	H25年度	H26年度(見込み)
活動実績	① 塵芥収集量	トン	71,944.24	76,083.85	76,083.85
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業費÷塵芥収集量	円/トン	20,240	21,991	21,941
	②				
	③				
目標とする成果 (費用対効果含む)	平成21年6月に改訂を行った「新・循環型社会構築のための枚方市一般廃棄物減量及び適正処理基本計画(改訂版)(以下「一般廃棄物基本計画」という。)」に基づき、市民・事業者・行政と協働のもとごみ減量の取り組みを展開し、平成30年度に約68千トンの塵芥収集量を目指していく。				
成果目標 達成状況	平成22年度より塵芥収集量及び焼却ごみ量が横ばい傾向であり、一般廃棄物基本計画にあげられる目標値に達していない状況である。			目標達成度	目標を下回る
比較参考値 (他自治体とのコスト比較、サービス水準比較)	枚方市における平成24年度の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は、515グラムと大阪府下43市町村中9番目に低い数字となっている。また、資源化率については、22.1%であり大阪府下43市町村中3番目に高い数字となっている。				
事業のPR	ごみの分け方・出し方や収集曜日などのリーフレットの各戸配布やホームページへの掲載などにより、情報提供を行っている。				
市民満足度	平成25年度施策評価にかかる施策アンケートでは、重要度が80.4と高く、満足度は61.9と普通になっている。また、平成24年度施策評価にかかる施策アンケートと比較すると、重要度が3.5上昇し、満足度も2.7上昇していることから、本事業については、概ね満足とされる結果となっている。				
特記事項	平成10年10月から実施の「ごみ袋の透明・半透明化」や平成11年3月の「粗大ごみの電話予約戸別収集開始」、また平成14年4月の「大型ごみの有料化」や平成20年2月からの「ペットボトル・プラスチック製容器包装の全市分別収集開始」などにより、平成9年度から約30.3%の焼却ごみ量の減量となっている。  平成25年度から事務事業実績にプラスチック製容器包装類の資源化事業を統合したため、塵芥収集量が増加している。				

一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	効率的な収集体制の確立を図るとともにセーフティネットをふまえ民間委託化に取り組む
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間委託の内容と量について最適化の検討</li> <li>・委託割合は妥当か。</li> </ul>	
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策		